

平成 29 年 4 月 1 日

技術部長殿

機器分析グループ 渡辺裕太

機器分析グループ 新規採用者研修報告書

表題の件について、下記のように御報告申し上げます。

記

1. 被研修者 渡辺 裕太
2. 期間 平成 27 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日
3. 場所 熊本大学 工学部 技術部
4. 指導者 工学部 技術部 機器分析グループ 技術専門職員 山室賢輝
5. 目的
熊本大学の技術職員として、本学の理念と目標に沿った教育・研究支援をおこなうために必要な知識および技術を習得する。
6. 研修項目および成果
 - 1) 初任者研修
新規採用の事務職員と交流を図りながら、学長や理事の講話、グループワークの実施等を通して、「国立大学法人 熊本大学」の職員として働くことの心構えを習得した。
今後も引き続き、大学の職員として必要な知識の取得に努めていく。
 - 2) 研究支援
支援業務をおこなっていく上で必要な、分析装置の操作技術や原理についての知識の取得に努めた。特に、走査型電子顕微鏡および蛍光 X 線分析装置については、学生等からの依頼分析や操作講習にも対応できる知識と技術を身に付けた。その他いくつかの分析装置に関しても、ごく簡単な日常点検やメンテナンス方法を習得した。また、X 線回折装置、電子線マイクロアナライザおよび電子線後方散乱回折法を用いて、機器分析グループの職員と協力しながら、学外からの依頼分析に対応した。これらの支援業務を通して蓄積した分析技術は、「2016 年度 名古屋大学 機器・分析技術研究会」、「総合技術研究会 2017 東京大学」において発表をおこなった。
また、マテリアル工学科の各研究室におけるドラフトチャンバーの定期自主検査や、学生実験室および共有スペースにおける安全衛生管理状況のチェックをおこない、学生が安全に実験できる環境整備をおこなった。

3) 教育支援

マテリアル工学科の学生実験 2 単元（「金属組織のスケッチ」および「鋼の熱処理」）を担当した。同学科の学生実験は、技術職員も教員と同様に 1 テーマを単独で担当している。学生が安全に実験をおこなえるような環境の整備に努め、万が一にも事故が発生しないよう十分配慮して、実験指導をおこなった。また、学生がスムーズに実験内容を理解できるように、授業で習ったことを復習しながらひとつひとつの実験手順の意味を丁寧に説明する、等の工夫をおこなった。

4) 外部資金

平成 27 年度、28 年度共に日本学術振興会が募集する奨励研究に応募した。今後も積極的に外部資金への応募をおこない、研究および技術開発の遂行に努める。

5) 業務に必要な資格取得に向けた取り組み

本学は文部科学省の支援事業「スーパーグローバル大学創成支援」に採択されており、今後増加すると考えられる留学生の対応に際し、技術職員の外国語運用能力の向上が求められている。そこで、熊本大学共通スキル育成研修「異文化コミュニケーション研修」、「英語研修（通学受講型）」、「TOEIC 対策セミナー」などの研修に参加し、英語運用能力の向上に努めた。その結果として、TOEIC スコア 760 を獲得した。

6) 地域貢献における実績

平成 27 年度の中学生を対象とした夏休み自由研究相談会では、「手作りバターをつくろう」「色鉛筆は作れるのか？」の 2 テーマを担当した。家庭にあるもので実験をおこなえるよう、事前に材料や作り方を工夫したうえで、相談会に臨んだ。また、平成 27 年度および 28 年度の夢科学探検では、主に小学校入学以前の幼児を対象とした、「大きなシャボン玉をつくろう！」というテーマを担当した。いずれの取り組みにおいても、子供達の関心を強く引きつけ、科学の面白さを感じてもらおうと同時に、大学が果たすべき地域貢献活動の一端を担うことができたと考えている。

7) その他 WG 活動等

- ・百周年・223 WG として、11 件の支援業務
- ・第 16 回干潟フェスタに関する技術教育支援
- ・沿岸域環境科学教育研究センター所属の CN マクロコラー管理

平成 28 年度は熊本地震からの災害復興活動として、実験室および講義室等の環境整備や、実験装置類の転倒防止等をおこなった。

以上